

# 高校日本史プリント（過去問類似）

## 近代Ⅱ（大正～二つの大戦） No.6

名前

得点

/10

問1 『原敬日記』において、立憲政体の基礎を築き、1900年に結成された政党の初代総裁となった功績について、国家を思う念慮に基づくものとして高く評価されている、初代内閣総理大臣を務めた政治家は誰か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 山県有朋                      2. 松方正義                      3. 大隈重信                      4. 伊藤博文

問2 第一次世界大戦後の戦後恐慌や震災手形の未決済問題を背景に、1927年、蔵相の失言をきっかけとして発生した、中小銀行の休業や破綻、さらには銀行の合併・整理を急速に進める契機となった経済的混乱を何というか。（2022年 全国公立入試 類似）

1. 震災恐慌                      2. 戦後恐慌                      3. 金融恐慌                      4. 昭和恐慌

問3 1939年7月、アメリカは日本に対して日米通商航海条約の廃棄を通告し、翌年に同条約は失効した。アメリカがこの措置をとる直接の背景となった、1937年に勃発し長期化していた日本と中国との間の軍事衝突は何か。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 済南事変                      2. 上海事変                      3. 満州事変                      4. 日中戦争

問4 1930年代の日本の植民地貿易において、日本への食料品輸出や日本からの工業製品輸入を通じて本国市場への貿易依存度が極めて高くなり、1910年の併合条約によって日本の統治下に置かれていた地域はどこか。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 満州                              2. 台湾                              3. 樺太                              4. 朝鮮

問5 大正期、工業化の進展に伴い都市部では俸給生活者などの新しい階層が形成されて大衆文化が栄えた。しかし、都市と農村の生活格差や都市内部の貧富の差は解消されず、1918年にはシベリア出兵にともなう米価の急騰を契機として、富山県の漁村の女性たちによる行動から始まり、全国の都市や炭鉱へと波及した大規模な民衆暴動が発生した。この出来事を何というか。

（2022年 全国公立入試 類似）

1. 米騒動                              2. 普選運動                              3. 小作争議                              4. 護憲運動

問6 1918年に初の本格的な政党内閣を組織し、「平民宰相」として国民から期待されたが、納税資格を撤廃する選挙制度の改革運動に対しては、社会秩序の混乱を懸念して「時期尚早」とであると主張し、一貫して反対の立場をとった首相は誰か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. 桂太郎                              2. 寺内正毅                              3. 原敬                              4. 高橋是清

問7 太平洋戦争末期の1944年、政府は米軍による本土空襲の激化に備え、大都市の国民学校初等科の児童を親元から離して地方の寺院や旅館などに集団で避難させた。この戦時下の措置を何というか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 学徒勤労動員                      2. 学童集団疎開                      3. 徴兵猶予停止                      4. 国民徴用令

問8 1930年代の日本では、軍部の政治的発言権が急速に拡大した。1936年に急進的な青年将校らによるクーデタ未遂事件が発生したのち、広田弘毅内閣のもとで陸海軍の要求により再導入され、軍部が意に沿わない内閣を退陣に追い込むなど政治を主導する決定的な要因となった制度は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 陸海軍省官制改正                      2. 文官任用令改正                      3. 軍部大臣現役武官制                      4. 文官高等試験令

問9 日中戦争が長期化するなか、近衛文麿内閣は国民政府の分裂を図り、重慶を脱出した国民政府の和平派の人物を首班とする新政権を1940年に南京に樹立した。この新政権の首班となった人物は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 袁世凱                              2. 蔣介石                              3. 汪兆銘                              4. 毛沢東

問10 第一次世界大戦期から1930年代にかけて、日本の都市部や農村の一般家庭において、従来の石油ランプやガス灯に代わって急速に普及し、夜間の生活時間を延長させるなど国民の生活様式を大きく変えた照明器具は何か。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 提灯                              2. 電灯                              3. 行灯                              4. 洋灯

## 答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 4 伊藤博文	原敬は自身の日記（『原敬日記』）の中で、立憲政体の導入や立憲政友会の創始における伊藤博文の役割を、国家の将来を深く見据えた行動として極めて高く評価した。一方で、伊藤自身は山県有朋ら山県系官僚グループが政党内閣の運営を妨害しているとして激しく非難しており、山県を評価していたわけではない。
問2	答え 3 金融恐慌	1927年3月、衆議院予算総会での片岡直温蔵相の失言をきっかけに、預金者の取り付け騒ぎが発生した。これにより、経営基盤の弱かった中小銀行の休業や破綻が相次ぎ、金融界は大混乱に陥った。この事態に対して、のちに成立した田中義一内閣はモラトリアム（支払猶予令）を発令して沈静化を図った。この混乱を機に、政府は銀行法を制定して銀行の最低資本金を定め、中小銀行の合併・整理を推進した。その結果、五大銀行への資金集中が一段と進むことになった。
問3	答え 4 日中戦争	1937年の盧溝橋事件を契機に始まった日中戦争が長期化するなか、日本は東亜新秩序の建設を宣言するなどして中国大陸への進出を強めました。これに対して、中国を支援するアメリカやイギリスとの対立が激化し、アメリカは日本への経済的圧力を強めるために1939年7月に日米通商航海条約の廃棄を通告しました。
問4	答え 4 朝鮮	1930年代の日本において、植民地との貿易は円で決済されたため、植民地から食料品を多く輸入することは外貨の節約に寄与した。日本の植民地であった朝鮮は、イギリスやフランスの植民地と比べて本国（日本）市場への貿易依存度が極めて高いという特徴を持っていた。
問5	答え 1 米騒動	大正期の日本では、工業化に伴い都市部でサラリーマンなどの新中間層が台頭し、消費生活が向上した。しかし、農村との格差や都市内部の貧困問題は根強く、第一次世界大戦中の物価高騰、特に米価の急騰は民衆の生活を直撃した。1918年7月に富山県で発生した米の移出反対運動は、またたく間に全国の主要都市や炭鉱へと広がり、軍隊が出動するほどの大規模な暴動へと発展した。この事件は寺内正毅内閣が退陣する原因となった。
問6	答え 3 原敬	1918年に米騒動ののち組閣した人物は、爵位を持たない衆議院議員であったことから「平民宰相」と呼ばれ、本格的な政党内閣を率いた。しかし、当時高まっていた納税資格を撤廃する選挙制度の導入運動（普選運動）に対しては、国民の政治的成熟が不十分であるとして時期尚早論を唱え、慎重・反対の姿勢を崩さなかった。1919年には選挙法を改正して納税資格を直接国税3円以上へと引き下げたものの、制限選挙の枠組みは維持した。
問7	答え 2 学童集団疎開	1944年、東条英機内閣のもとで「学童疎開促進要綱」が閣議決定され、東京などの大都市の国民学校初等科児童を対象に、縁故のない児童を地方へ集団で避難させる措置が実施された。これにより、多くの子どもたちが親元を離れて不自由な共同生活を余儀なくされた。
問8	答え 3 軍部大臣現役武官制	二・二六事件（1936年）の後、広田弘毅内閣は軍部の要求を入れて軍部大臣現役武官制を復活させた。これにより、現役の将官（大将・中将）でなければ陸軍大臣・海軍大臣に就任できなくなり、軍部が大臣を推薦しない、あるいは引き揚げることで、内閣を組織させず、または総辞職に追い込むことが可能となった。この制度の復活は、軍部が政治の主導権を完全に握る契機となった。
問9	答え 3 汪兆銘	日中戦争の長期化に直面した日本政府は、「国民政府を相手とせず」との声明を出して蒋介石の国民政府との交渉を打ち切った。その後、国民政府の分裂を狙い、重慶から脱出した和平派の人物を擁立して、1940年に南京に新たな国民政府（傀儡政権）を樹立した。しかし、蒋介石の重慶政府は抵抗を続けたため、事態の解決には至らなかった。
問10	答え 2 電灯	第一次世界大戦から1930年代にかけての時期、電力技術の発展と送電網の整備を背景に、一般家庭の照明器具として急速に普及したのはガス灯ではなく電灯であった。これにより、夜間の活動が容易になり、人々の生活文化や労働形態に大きな変化をもたらした。